

## お国言葉で詩朗読 墨田



津軽三味線の音色が響く中、詩を朗読する参加者（12日、墨田区で）

地域の方言などで書かれた詩の朗読会が12日、墨田区吾妻橋1の「すみだリバーサイドホール」で開かれた。参加者たちは、千葉県や東北地方の方言でつづった自作の詩を披露した。

企画したのは神戸市の詩人・永井ますみさん（66）。永井さんは2009年から全国各地を回り、地域の人たちがその土地の言葉で作った詩を朗読する姿を、映像に収める活動を続けている。

西東京市の谷口典子さん（71）は朗読会で、甲州弁による詩を披露した。両親が山梨県出身だといい、「土臭くて武骨だが、自然体のやさしさを感じる甲州弁が好き。これからも甲州弁の詩を作っていきたい」と語った。

永井さんも女性の半生を古代米子弁で詠んだ「弥生の昔の物語抄」を朗読。「各地の言葉で詠まれた詩を記録しながら後世に残していきたい」と話していた。